

肺高血圧症

ECG

軽症例では心電図波形が正常であることが多い。

1. 右室肥大

- ① V1でR増高（5mm以上）もしくは $R/S \geq 1$
- ② V1～3で右室ストレイン型ST低下
- ③ V5～6で深いS（7mm以上）もしくはV5での $R/S \leq 1$
- ④ 右軸偏位
- ⑤ QRS巾拡大
- ⑥ QT延長
右室ストレイン、QRS巾の拡大、QT延長を
来たすようになると、より重篤なPHである
可能性が高い。
治療によりPHが改善すればECG上RV、RA
負荷所見が軽快する。

2. 右房負荷

- ① IIでP波増高（2.5mm以上）
- ② 心房粗動、心房細動
5年間で25%の患者に認められる。
このような不整脈は心拍出量を低下させ、病態を
悪化させるきっかけとなる。